

株主通信

第3期中間期

平成22年4月1日～平成22年9月30日

ISETAN MITSUKOSHI HOLDINGS

桜鼠 *sakuranezumi*



三越伊勢丹ホールディングス

グループスローガン

向きあって、その先へ。

グループの姿勢

真摯に、しなやかに、力強く、向きあいます。

- ・お客さま一人ひとりと向きあいます。 ご要望とご期待に感動レベルのおもてなしでお応えします。
- ・仲間たちと向きあいます。 学びあい、磨き合い、新たな価値を創造します。
- ・株主の皆さまと向きあいます。 公正透明な経営を基盤に、誠意と成果でお応えします。
- ・パートナーの皆さまと向きあいます。 顧客満足を合言葉に、最良の関係を築きます。
- ・地域、社会、地球と向きあいます。 ありがたい未来の実現に向けて貢献します。

将来にわたり、かけがえのない信頼関係を築いていきます。

グループビジョン

「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、
お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、
お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、
高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」となる。

目次

三越伊勢丹グループ企業理念	1
ごあいさつ	2
当中間期の概況	3
連結財務諸表	13
三越伊勢丹グループの目指す方向	15
トピックス	17
三越伊勢丹ホールディングスの概要	19
株式に関するお知らせ	23
株主メモ	25

※本「株主通信」の一部におきまして、第2四半期を中間期とする等の表記をしております。



代表取締役社長執行役員
石塚 邦雄

世界随一の 小売サービス業グループの 実現に向けて

株主の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成22年9月30日をもちまして、株式会社三越伊勢丹ホールディングスの第3期中間期（平成22年4月1日～平成22年9月30日）の決算を行いましたので、ここに株主通信をお届けさせていただきます。何卒、ご高覧いただきたくお願い申し上げます。

当中間期におきましては、国内における政策効果や猛暑特需の影響で足元の売上げを伸ばす企業もありました。しかしながら、長引く円高・株安の進行は消費者心理を冷やすとともに、景気の減速懸念が深まったことで、個人消費は全体として回復を実感できないままの状況で推移いたしました。

この間、当社グループは、統合効果を速やかに顕在化すべく、全社一丸となって踏み込んだ構造改革を継続することで、効率的なグループ運営基盤を着実に築いてまいりました。

今後も、経済環境は厳しい状況が続くと思われませんが、一人ひとりのお客さまと向き合い、新たな価値を創造することで「世界随一の小売サービス業グループ」の実現を目指してまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

当社グループの現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当中間期における日本経済は、米国・欧州経済への不透明感が深まるなか、円高の進行で輸出が減速するなど、企業部門の回復は極めて限定的となりました。また、国内の政策効果の一巡で、個人消費の底上げ効果も薄れる一方、失業率が高止まりを続けるなど、景気は総じて厳しい状況で推移いたしました。

小売業界におきましては、顧客の低価格志向を捉えたブランドの導入や都市部の店舗開発等で巻き返しを期する企業もありましたが、経済の減速懸念や株価低迷等が消費者心理に及ぼす影響は大きく、多くの企業が減収基調となりました。

このような状況のもとで当社グループは、グループビジョンに掲げる「世界随一の小売サービス業グループ」の実現に向け、三越と伊勢丹ならびにグループ各社が有する強みと経営資源を最大限に活かすべく、営業力の強化と業務効率の向上に向けた基盤整備に取り組みました。

百貨店業



〈三越・日本橋本店〉

百貨店業では、まず、三越におきまして、コーポレートメッセージの「飾る日も飾らない日も 三越と」でお伝えするように、お客さまの人生の節目を飾る特別な日にも、ささやかな日常の中の日にも、上質な商品とサービスを提供することで、お客さまとの強い信頼関係を築いてまいりました。

日本橋本店におきましては、「三越の象徴に相応しいプレステージストア」の確立を目指し、上質を求めめるお客さまのご要望に的確にお応えすべく、店頭営業に関わる業務フローを見直すとともに、情報システムのグループ一体運営を推進することで、お客さまのご満足の最大化を図るための体制を整えました。





〈三越・銀座店4階 婦人服〉



〈三越・銀座店9階 銀座テラス〉

また、平成20年7月より増床工事に取り組んでおりました三越銀座店は、本年9月11日に、地域最大規模の商業施設に生まれ変わりオープンいたしました。

同店におきましては、「新しい価値を、スタイルとして創造し、時代の扉を開ける店」をストアコンセプトに掲げ、「銀座らしさ、銀座ならではの」にこだわった商品やサービスを、衣・食・住・遊・知のすべての分野において、新しいスタイルとして提案いたしました。その結果、同店への来店顧客の年代層が広がるなど、お蔭様で、現在のところ連日の盛況を博しております。

次に、伊勢丹におきましては、ブランドメッセージの「毎日が、あたらしい。ファッションの伊勢丹」を具体的に実践すべく、お客さまの声から生まれた「オンリー・アイ」を中心に、独自性の高い商品やサービスを幅広く提案してまいりました。

新宿本店では、「世界最高のファッションデパートメントストア」の実現に向け、日々、店頭において一人ひとりのお客さまの声と向き合い、お客さまの真意に近づくことで、新しい提供価値の創出に努めてまいりました。

また、伊勢丹の支店では、地域のニーズにお応えした商品や販売サービスを提供することで地元顧客にご満足をいただくとともに、各店の品揃えや業務オペレーション等を標準化した「ユニットショップ」が支店の収益力向上に貢献いたしました。

一方、その他のグループ百貨店におきましては、グループ運営体制の基盤整備をさらに推し進めるとともに、「ユニットショップ」をはじめ、規模の効果を最大限に活かした営業施策への具体的な取組みを開始いたしました。

さらに、グループ経営資源の最適配分を実現するとともに、地方店舗が地元に着目した最適な営業施策を迅速に推進できる体制を整備す



〈伊勢丹・新宿本店〉



べく、地方店舗の事業再編に取り組みました。

具体的には、当社が新たに設立した株式会社札幌三越、株式会社仙台三越、株式会社名古屋三越、株式会社広島三越、株式会社高松三越、株式会社松山三越、株式会社福岡三越の各社は、本年4月1日付で、それぞれ三越の地方店舗の事業を承継し、地域において独立した事業運営会社となりました。

また、店舗が併存するエリアにつきましては、地域における一体運営をさらに推し進めるべく、本年4月1日付で、株式会社新潟伊勢丹が、三越新潟店の事業を承継し株式会社新潟三越伊勢丹に商号を改める一方、10月1日付で、株式会社岩田屋と株式会社福岡三越は合併し株式会社岩田屋三越となりました。さらに来年4月には株式会社札幌丸井今井と株式会社札幌三越は会社統合する予定でございます。

なお、当社グループは、選択と集中による構造改革を推し進めておりますが、その一環として、本年8月末日をもちまして、三越の専門館事業であります札幌アルタは営業を終了いたしました。同店の営業終了に伴うご不便を深くお詫び申しあげるとともに、今までのご支援、ご愛顧に心よりお礼申しあげます。



また、当社は、グループ力を最大限に発揮できる運営基盤の構築に向け、平成20年4月の会社設立以来、グループ百貨店や関係会社の再編を進めておりますが、さらに統合効果を高めるべく、来年4月には、組織再編の最終形として、株式会社三越と株式会社伊勢丹の合併を予定しております。

次に、海外の百貨店業におきましては、中国において、同国の旺盛な国内需要を背景に、現地通貨ベースで前年同期を大きく上回る店舗が多く好調に推移いたしました。また、東南アジア地域におきましても、個人消費の動きは底堅く、現地通貨ベースでは総じて堅調に推移いたしました。

なお、タイのバンコク伊勢丹につきましては、同市の中心部で始まった反政府運動の影響で、本年4月3日より営業を一時中止いたしました。店舗被害は極めて軽微であり、6月24日より営業を再開いたしました。

また、パリ三越は、当社グループの進める選択と集中による構造改革の一環として、本年9月末日をもち





まして営業を終了いたしました。同店は、昭和46年に業界ではじめて欧州に出店した店であり、日本から旅行で来られるお客さまをはじめ現地在住のお客さまにも長年にわたりご愛顧をいただいております。このたびの営業終了で皆様にご不便をおかけしますことをここに深くお詫び申しあげるとともに、これまでのご支援、ご愛顧に心よりお礼申し上げます。

なお、欧州におきましては、ロンドン三越とローマ三越が、今後もお客さまにご満足いただける商品と上質なサービスの提供に努めてまいります。

以上のような結果により、百貨店業の売上高は5,401億円余、前年同期比94.6%、営業利益は23億円余、前年同期比427.5%となりました。

■ クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業につきましては、お客さまの利便性をより高めるとともに収益力の高い経営基盤の構築に向けて、カード・保険・友の会事業に関するグループ運営体制を整備いたしました。

具体的には、当社子会社の株式会社エムアイカードは、本年4月1日より、三越と伊勢丹の各店において共通のグループカードの運営を開始いたしました。10月1日からは、岩田屋と丸井今井の各店もこれに加え、グループ店舗全体で共通のサービスを提供できる体制を整えました。

また、株式会社エムアイカードは、昨年9月に伊勢丹新宿本店の隣接地に「フィナンシャルジュプラザ」をオープンし好評を得ておりますが、同社の提供する保険や資産運用等の金融サービスを、さらに多くの百貨店顧客に紹介すべく、三越の日本橋本店と銀座店にコンサルティングルームを設置いたしました。

さらに、株式会社エムアイカードは、本年4月1日付で、当社子会社の株式会社三越保険サービスを吸収合併する一方、当社子会社の株式会社三越友の会と株式会社イセタンクローバーサークルの2社を直接子会社といたしました。また、2社は同日合併し株式会社エムアイ友の会となりました。さらに、株式会社エムアイ友の会は、10月1日付で、岩田屋友の会株式会社を吸収合併いたしました。



〈フィナンシャルジュプラザ〉



〈グループカード〉

なお、株式会社エムアイ友の会は、本年4月1日より、三越と伊勢丹の各店における友の会の一元的な運営を開始いたしました。10月1日からは、岩田屋の各店と丸井今井札幌本店もこれに加え、グループ店舗全体の友の会運営をほぼ一元化したことで、顧客基盤強化に向けた諸施策を効果的に推進する準備を整えました。

クレジット・金融・友の会業につきましては、同事業をグループ収益の第二の柱に育てるべく、当初計画を前倒して実施するなど運営基盤の構築を急いでまいりました。その結果、グループ化の進展による加盟店手数料が大幅に増加いたしました。グループカード発行に伴う経過的な経費等の増加がありました。

以上のような状況のもとで、クレジット・金融・友の会業の売上高は106億円余、営業利益は22億円余の損失となりました。

なお、クレジット・金融・友の会業は、当第3期より、従来独立して区分表示しておりました友の会事業を含めることといたしましたので、前年同期比は記載しておりません。



〈エムアイ友の会カード〉

■ 小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、伊勢丹子会社の株式会社クイーンズ伊勢丹が、品質を追求した「グリーンQ」をはじめ、食の安心・安全・健康を重視した質の高い品揃えを実現するとともに、店舗リモデルにおいて、三越の専門館事業の運営ノウハウを取り入れるなど、営業力強化に向けてグループ内の相乗効果の創出に努めました。

また、クイーンズ伊勢丹につきましては、収益力向上と採算性重視の施策を推進しておりますが、長引く消費低迷の影響もあり、売上高は厳しい状況が続きました。

以上のような結果により、小売・専門店業の売上高は259億円余、前年同期比87.7%、営業利益は2億円余の損失となりました。



〈グリーンQ〉



■ 不動産業

不動産業につきましては、生産性の高い営業支援機能の構築に向け、グループ関係会社の事業再編に取り組み、本年4月1日には、伊勢丹子会社の株式会社伊勢丹ビルマネジメントサービス（ビル管理子会社）を当社の直接子会社とし、商号を株式会社三越伊勢丹ビルマネジメントに変更いたしました。同社はグループ百貨店の店舗環境の標準化等によるコスト削減を推進しております。

このような取組みにより、不動産業の売上高は183億円余、営業利益は10億円余となりました。

なお、従来不動産業は、その他に含めておりましたが、当第3期より不動産業として区分表示することといたしました。従って、本不動産業および後記のその他につきましては、前年同期比を記載しておりません。

■ その他

その他につきましては、物流・人材サービス等の営業支援機能の生産性を高めるべく、グループ内の経営資源の最適化を図るとともに効果的な業務支援体制の構築に努めました。

このような取組みにより、その他の売上高は405億円余、営業利益は9億円余となりました。

以上のような結果により、当第2四半期の連結決算につきましては、売上高は5,799億円余、前年同期比94.0%、営業利益は前年同期と比べ13億円余増加し9億円余となりました。また、経常利益は85億円余、前年同期比125.1%、四半期純利益は4億円余、前年同期比9.9%となりました。

なお、平成22年4月1日から平成22年9月30日までの株式会社三越の売上高は1,310億円余、営業利益は21億円余の損失となりました。また、同期間の株式会社伊勢丹の売上高は1,744億円余、前年同期比93.9%、営業利益は40億円余、前年同期比131.3%となっております。株式会社三越につきましては、平成22年4月1日付で、同社の地方店舗の事業を分社化したため、前年同期比を記載しておりません。

(2) 対処すべき課題

さて、今後の経済環境につきましては、世界経済が早期に安定し外需先行の景気拡大が再開することが望まれますが、内需振興を促す一連の政策効果の反動や急激な円高が企業業績に及ぼす影響もあり、先行きは不確かな状況が続くと思われまます。

また、小売業界におきましては、個人消費に大きな改善が期待できないなか、業態の垣根を越えた顧客の争奪戦はさらに激化する一方、生き残りをかけて新たな成長機会に挑戦する企業も増加すると思われまます。

【戦略骨子Ⅰ】顧客接点の再強化とお取引先との関係の見直し

【戦略骨子Ⅱ】グループ基盤整備と構造改革の推進

【戦略骨子Ⅲ】成長事業の育成

このような状況のもとで当社グループは、戦略骨子として掲げる以下の3つについて、今後も着実に取り組むことで前進を続けてまいります。

戦略骨子の1つ目は、顧客接点の再強化とお取引先との関係の見直しでございます。

これは、お客さまの真のご要望を迅速かつ的確に把握する力を高めるとともに、商品仕入れにおける無駄を極力排除することで、適時適品を、価値に見合った価格で、ご提供できる当社独自のビジネスモデルを構築することでございます。

戦略骨子の2つ目は、グループ基盤整備と構造改革の推進でございます。

これは、先にご報告のとおり、百貨店事業会社の統合や百貨店周辺事業・関連事業の整理・統廃合等を推進し、効率的なグループ運営基盤を構築することで、早期に統合効果の顕在化を図るものがございます。

戦略骨子の3つ目は、成長事業の育成でございます。

これは、少子高齢化等で、百貨店の市場規模が縮小傾向のなか、安定した収益基盤となりうる事業を育成するものがございます。具体的には、今後も成長が期待される中国・東南アジア地域での百貨店事業、百貨店顧客への金融サービスを含むトータルライフアテンダントの提供が可能なカード事業、百貨店の強みである顧客接点を活かしたWEB・宅配等のソリューションビジネスの3つに当面は取り組んでまいります。

当社グループは、以上の戦略骨子を着実に遂行することで、常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さまにとってなくてはならな



い「マイデパートメントストア」となることを目指してまいります。

さらに、コーポレート・ガバナンスにつきましては、株主の皆様にご信頼いただける透明性・客観性の高い経営機構の構築に引き続き取り組むとともに、実効的な内部統制システムを整備することで、企業価値向上に向けた基盤づくりに努めてまいります。

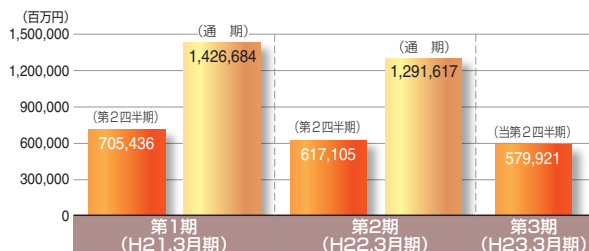
なお、株主様ご優待制度につきましては、本年7月1日より、従来 of 制度内容を一部改め、新たな株主様ご優待制度としてスタートさせていただきました。本改定は、株主の皆様当社グループの店舗をさらに便利にご利用いただくことで、当社株式を末永くご所有していただくことを趣旨としております。何卒、今後とも株主様ご優待制度をご利用くださいますようお願い申し上げます。

ここに、皆様の日頃のご支援とご愛顧に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援と鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 財産および損益の状況の推移

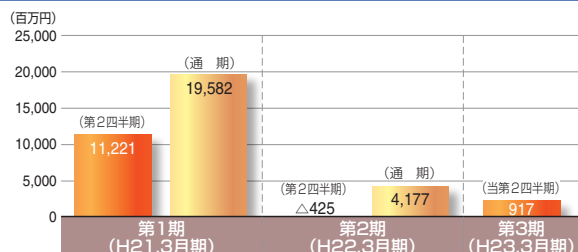
●連結売上高

中核事業である百貨店業を中心に、グループ力を最大限に発揮できる体制の構築に取り込むとともに、日々、店頭でお客様の声と向き合い、お客様の真のご要望を具現化することに努めてまいりました。しかしながら、景気が総じて厳しい状況で推移するなか、当第2四半期の連結売上高は、前年同期と比べ6.0%減少し579,921百万円となりました。



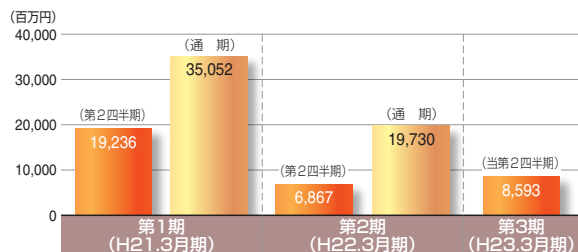
●連結営業利益

売上総利益は164,049百万円と前年同期と比べ10,449百万円減少しましたが、販売費及び一般管理費は経費削減を推し進めたことにより前年同期に比べ11,791百万円減少しました。その結果、当第2四半期の連結営業利益は前年同期と比べ1,342百万円増加し917百万円となりました。



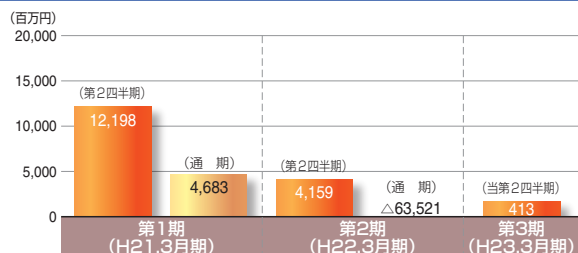
●連結経常利益

負ののれん償却額6,617百万円など営業外収益を11,216百万円計上する一方、営業外費用として3,540百万円を計上いたしました結果、当第2四半期の連結経常利益は前年同期と比べ1,725百万円増加し8,593百万円となりました。



●連結純利益

特別利益として投資有価証券売却益489百万円などを計上する一方で、投資有価証券評価損278百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額5,522百万円などの特別損失6,168百万円を計上いたしました結果、税金等調整前四半期純利益は2,951百万円となりました。さらに、法人税等の税金費用、少数株主利益を計上いたしました結果、当第2四半期の連結純利益は前年同期と比べ3,746百万円減少し413百万円となりました。





連 結	第1期 (H21.3月期)		第2期 (H22.3月期)		第3期 (H23.3月期)
	(第2四半期)	(通 期)	(第2四半期)	(通 期)	(当第2四半期)
売上高(百万円)	705,436	1,426,684	617,105	1,291,617	579,921
営業利益または営業損失(△)(百万円)	11,221	19,582	△425	4,177	917
経常利益(百万円)	19,236	35,052	6,867	19,730	8,593
四半期(当期)純利益または 当期純損失(△)(百万円)	12,198	4,683	4,159	△63,521	413
1株当たり四半期(当期)純利益 または1株当たり当期純損失(△)(円)	31.45	12.08	10.73	△162.51	1.05
純資産(百万円)	515,015	489,740	491,103	425,120	414,703
総資産(百万円)	1,392,704	1,351,633	1,351,283	1,238,006	1,237,875

(注記) 本「株主通信」に記載する金額等については、表示桁未満の端数がある場合、これを切り捨ててあります。また、比率については、表示桁未満の端数がある場合、これを四捨五入してあります。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日現在)
資産の部	
流動資産	225,946
現金及び預金	32,011
受取手形及び売掛金	90,704
有価証券	894
商品及び製品	57,840
仕掛品	156
原材料及び貯蔵品	1,146
その他	46,420
貸倒引当金	△3,228
固定資産	1,011,819
有形固定資産	760,558
建物及び構築物（純額）	199,233
土地	538,393
その他（純額）	22,931
無形固定資産	49,184
のれん	1,541
その他	47,643
投資その他の資産	202,076
投資有価証券	89,019
その他	115,079
貸倒引当金	△2,022
繰延資産	109
社債発行費	109
資産合計	1,237,875

科目	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日現在)
負債の部	
流動負債	414,231
支払手形及び買掛金	102,572
短期借入金	42,263
未払法人税等	4,077
商品券回収損引当金	18,713
引当金	9,868
その他	236,737
固定負債	408,941
社債	24,000
長期借入金	91,000
繰延税金負債	193,757
退職給付引当金	45,924
引当金	38
負ののれん	33,085
その他	21,134
負債合計	823,172
純資産の部	
株主資本	420,414
資本金	50,037
資本剰余金	324,997
利益剰余金	45,465
自己株式	△86
評価・換算差額等	△16,923
その他有価証券評価差額金	△4,294
繰延ヘッジ損益	13
為替換算調整勘定	△12,642
新株予約権	876
少数株主持分	10,335
純資産合計	414,703
負債純資産合計	1,237,875

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結貸借対照表

- 総資産は1,237,875百万円と前連結会計年度末に比べて130百万円減少しました。これは、商品及び製品が1,428百万円増加したことなどで流動資産が694百万円増加する一方、有形固定資産が16,647百万円、無形固定資産が1,079百万円増加したこと、ならびに、投資その他の資産が18,661百万円減少したことで固定資産が934百万円減少したことなどによるものです。
- 負債合計は823,172百万円と前連結会計年度末に比べて10,287

百万円増加しました。これは、支払手形及び買掛金が7,631百万円増加したこと、ならびに、短期借入金43,420百万円減少したことなどで流動負債が24,795百万円減少する一方、社債が24,000百万円、長期借入金19,400百万円増加したことなどで固定負債が35,082百万円増加したことなどによるものです。

- 純資産合計は414,703百万円と前連結会計年度末に比べて10,417百万円減少しました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間
	自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日
売上高	579,921
売上原価	415,872
売上総利益	164,049
販売費及び一般管理費	163,131
営業利益	917
営業外収益	11,216
受取利息	392
受取配当金	454
負ののれん償却額	6,617
持分法による投資利益	1,727
その他	2,024
営業外費用	3,540
支払利息	903
その他	2,637
経常利益	8,593
特別利益	526
投資有価証券売却益	489
関係会社清算益	37
特別損失	6,168
固定資産売却損	69
投資有価証券売却損	7
投資有価証券評価損	278
関係会社整理損	290
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,522
税金等調整前四半期純利益	2,951
法人税等	2,144
少数株主損益調整前四半期純利益	807
少数株主利益	394
四半期純利益	413

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間
	自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,947
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,341
現金及び現金同等物に係る換算差額	△382
現金及び現金同等物の増減額	△5,675
現金及び現金同等物の期首残高	37,366
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,690

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結損益計算書

- 売上高は前年同期と比べ6.0%減少し、579,921百万円となりました。また売上高より売上原価415,872百万円を控除した売上総利益は164,049百万円となり、売上総利益率は28.3%となりました。
- 販売費及び一般管理費として163,131百万円を計上した結果、営業利益は前年同期と比べ1,342百万円増加し917百万円と増益となりました。また、営業外収支は7,675百万円の利益超過となり、経常利益は前年同期と比べ1,725百万円増加し、8,593百万円となりました。
- 経常利益に特別利益、特別損失を加味し、法人税等の税金費用、少数株主利益を計上した結果、四半期純利益は前年同期と比べ3,746百万円減少し413百万円となりました。

POINT 連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、16,312百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2,951百万円と減価償却費11,222百万円の計上、仕入債務の増加による収入7,822百万円があったことなどによるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、26,947百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出20,204百万円があったことなどによるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、5,341百万円の収入となりました。これは主に、社債の発行による収入23,887百万円の増加があった一方、借入金の返済による支出があったことなどによるものです。

三越伊勢丹グループ3ヶ年計画について

[1] これまでの取り組み

百貨店業界は、他業種・他業態との競争が激化するとともに、消費者の購買手段の多様化や低価格志向の進展を受け、市場規模は縮小する傾向にあります。さらに、リーマンショック以降、経済環境は厳しい状況が続いており、今後もしばらくはこの状況が続く、もしくは悪化する可能性もあると考えております。

こうしたなか当社グループは、昨年の秋に発表した3ヶ年計画に全社一丸となって取り組み、成果創出に向けて着実な前進を果たしております。また、環境与件の変化を踏まえて3年後のあるべき姿を設定するために、定期的に3ヶ年計画のローリング改定を行っております。

今後3ヶ年は、以下の3つの戦略骨子に沿って戦略を推進し、株主の皆様への提供価値を高めてまいり所存でございます。

[2] 今後3ヶ年の取り組み

【戦略骨子Ⅰ】顧客接点の再強化とお取引先との関係の見直し

「店頭において汲み取ったご要望に応じて商品・サービスを編集し、責任を持ってご提案すること、お客さまのご要望を創造すること」という百貨店の最も重要な役割を果たすため、

- ① 変化するお客さまの価値観・ご要望を迅速かつ的確に把握し、適時適品を実現すること
- ② お取引先との関係を見直し、部分的には川上まで遡って関与することで、無駄をなくし、商品の価格対価値の向上、リードタイムの改善、新しい商品やサービスの提供を行うこと
- ③ ①と②を支える仕組みを構築すること

の3点に取り組んでまいります。

【戦略骨子Ⅱ】グループ基盤整備と構造改革の推進

平成20年4月の三越と伊勢丹の経営統合以降、「経営基盤と営業基盤の統合・整備」ならびに「構造改革」を強力に推進したことで、来年4月の首都圏事業会社の統合をもって、グループ基盤整備には一定の目処がつかます。

今後は、店舗・各部門・関連各社の機能をさらに明確化するとともに、人材・組織の活性化を図り、経営資源を最大限に活用することで収益力を高めてまいります。

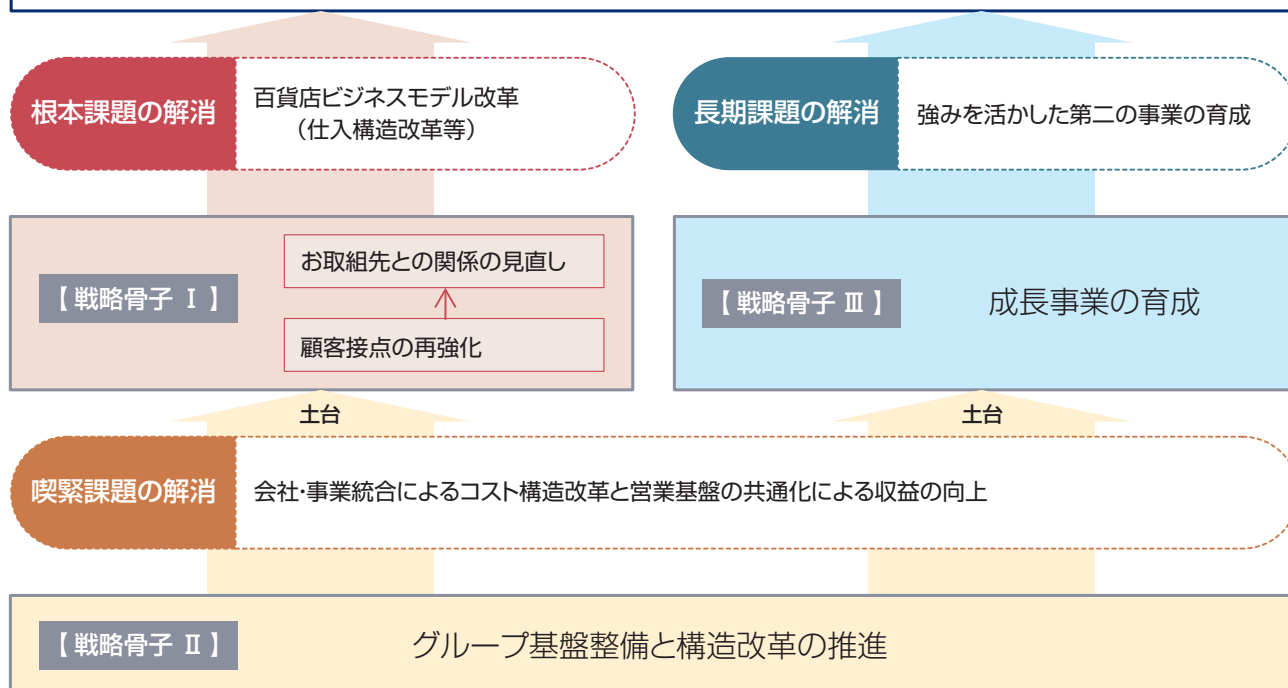
【戦略骨子Ⅲ】成長事業の育成

グループとして、安定した収益を生み出し存続していくため、ノウハウの蓄積があり、グループ経営資源を最大限活用することで、早期かつ着実に成果を生み出せる可能性の高い以下の事業に絞り込んで取り組んでまいります。

- ① アジアにおける小売業の拡大
- ② カード事業の拡大（トータルライフアテンダント事業の充実等）
- ③ ソリューションビジネスの拡大

目指すゴールイメージ

常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、
 お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、
 お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、
 高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ



[3] 数値イメージ

連結営業利益	平成25年度 300億円
投資計画	3ヶ年計画期間合計 約800億円

平成22年9月11日 新・三越銀座店 増床オープン

三越銀座店は、平成22年9月11日 銀座・有楽町地区で最大規模の百貨店として生まれ変わりました。新しい三越銀座店は、全面リニューアルした従来の店舗（西側）と新しい店舗（東側）がひとつになり「銀座らしさ、銀座ならではの」にこだわった「銀座スタイル」を各階に展開しております。



〈三越・銀座店〉

店舗概要

■ 店舗名	株式会社三越 銀座店	■ 従業員数	約720名（うち社員約470名）
■ 所在地	東京都中央区銀座4-6-16	■ 営業時間	地下3階～地上8階、10階：午前10時～午後8時 ※一部飲食店を除く
■ 規模	地下3階～地上12階		
■ 店舗面積	約36,000㎡		銀座テラス（9階）：午前10時～午後11時 ※一部施設を除く
■ 売上高目標	630億円（レストラン部門を含む） オープン後1年間		
■ 総投資額	420億円		11・12階レストランフロア：午前11時～午後11時

ストアコンセプト

「新しい価値を、スタイルとして創造し、時代の扉を開ける店」

銀座を訪れる方々に新しい価値を提供し「モノの新しさ」だけでなく、「心の豊かさ」までも追求することで、衣・食・住・遊・知 すべてにわたり「銀座らしさ、銀座ならではの」新しいスタイルを提案し、絶えず新しい価値をスタイルとして創造してまいります。

お客さま像

「自分の考えを持ち、本物本質を見極め、新しさと心の豊かさを求める大人」

銀座を訪れる方々の行動スタイル、ファッション、関心事等を徹底的に分析し、イメージするお客さま像に合わせた店づくり、サービス、品揃え、環境を提供してまいります。



〈5階 アディクションアリー〉



〈7階 ビジネスクロージング〉



〈M2階 サロンドキもの〉



〈地下2階 デセール・テ（洋菓子・紅茶）〉

店舗環境

銀座テラス

西側の屋外部分と東側9階を一体化させた公共スペースを設け、銀座を訪れるすべての方に「憩いとにぎわい」をご提供しております。銀座の情報を発信する「銀座インフォメーション」や芝生の広場、レストスペースをはじめ、お子様とご両親の快適な街歩きや環境に配慮した施設が充実しております。



〈銀座テラス〉



〈銀座インフォメーション〉

外国人観光案内所

海外から観光でおいでの皆さま向けのインフォメーションセンターを東側2階に設け、店内での英語と中国語によるお買物の免税手続き等のほか、銀座の街のご案内を行っております。



〈外国人観光案内所〉

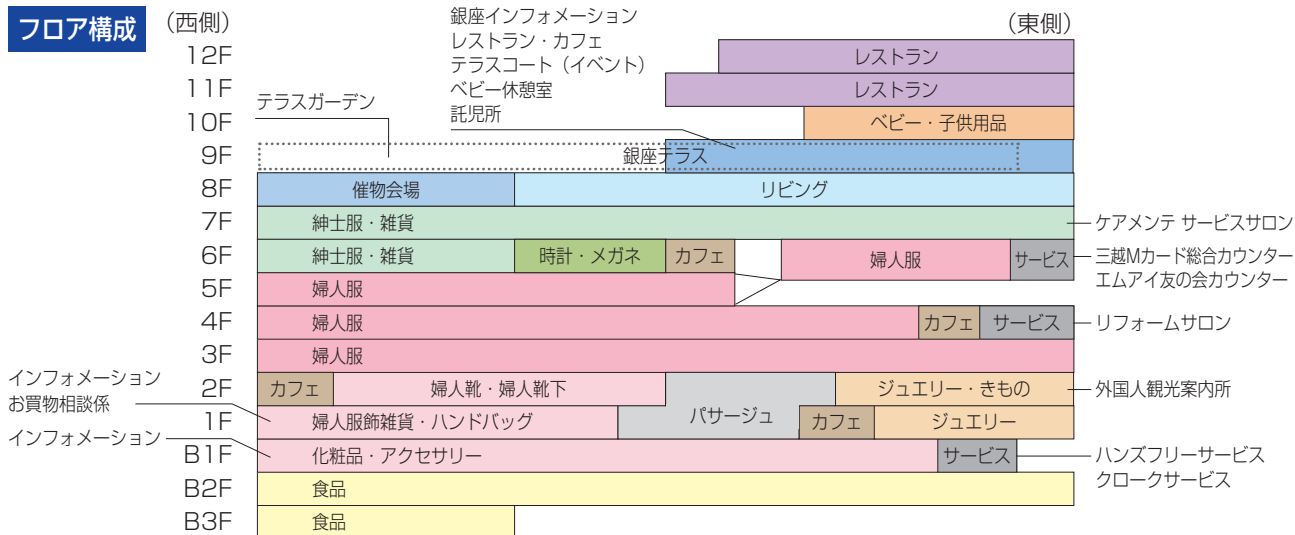
バリアフリー

すべての段差にエレベーターもしくはスロープを設置、多目的トイレを14ブース設置するほか、ゆっくりご試着いただけるユニバーサルフィッティングルームをファッション関連フロアに設置しております。



〈バリアフリースロープ〉

フロア構成



パサージュ

地上1階の店舗西側と東側の間にパサージュ（通路）を設け、日本初上陸のオープンスタイルのカフェが隣接することで、広がりのあるエントランスを演出しています。

駐車場

銀座エリア最大級となる駐車場の収容台数を確保します。また、近隣エリアの居住者増加にあわせ、駐輪所・駐バイク場の充実も図っております。
(駐車場399台／駐輪場192台／駐バイク場22台)

三越伊勢丹ホールディングスの概要

会社概要

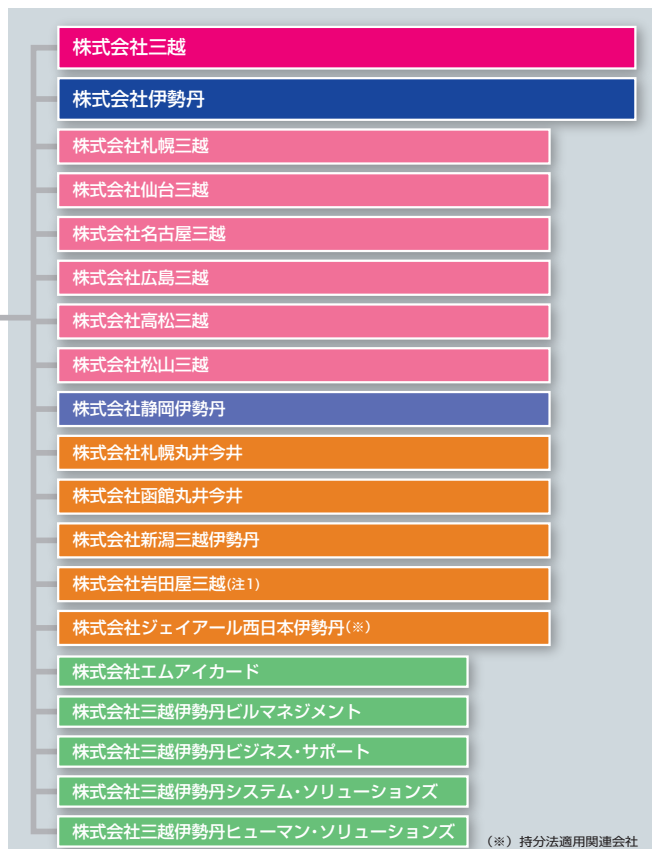
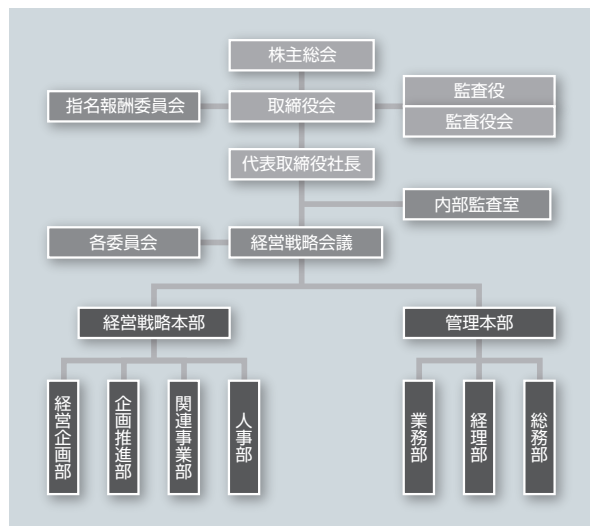
(平成22年9月30日現在)

商号	株式会社三越伊勢丹ホールディングス	会社設立	平成20年4月1日
事業内容	百貨店業等の事業を行う子会社およびグループ会社の経営計画・管理ならびにそれに附帯または関連する事業	資本金	500億37百万円
本社	〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目6番16号 (事務所所在地) 〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目16番10号	URL	http://www.imhds.co.jp

組織図

(平成22年10月1日現在)

株式会社三越伊勢丹ホールディングス



(注1) 株式会社岩田屋は、平成22年10月1日付で株式会社福岡三越と合併し、株式会社岩田屋三越となりました。



役員

(平成22年9月30日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
取締役会長	橋本 幹雄	
代表取締役社長執行役員	石塚 邦雄	※3 (株)三越代表取締役社長執行役員 (株)伊勢丹取締役
代表取締役専務執行役員	高田 信哉	経営戦略本部長 (株)伊勢丹取締役専務執行役員
取締役	大西 洋	(株)伊勢丹代表取締役社長執行役員 (株)三越取締役
取締役常務執行役員	赤松 憲	管理本部長
取締役	小島 浩介	(株)三越取締役常務執行役員
※1 取締役	畔柳 信雄	※3 (株)三菱東京UFJ銀行取締役会長 ※3 本田技研工業(株)取締役 ※3 (株)池田泉州ホールディングス取締役 ※3 (株)池田泉州銀行取締役 ※3 (株)三菱総合研究所取締役 ※4 三菱重工業(株)監査役
※1 取締役	宮村 眞平	三井金属鉱業(株)代表取締役会長兼CEO(最高経営責任者) パウダーテック(株)取締役会長
※1 取締役	池田 守男	※3 (株)資生堂相談役 ※3 東京メトロポリタンテレビジョン(株)取締役 ※3 旭化成(株)取締役 ※3 (株)ワコールホールディングス取締役 学校法人東洋英和女学院理事長・院長 学校法人資生堂学園理事長
常勤監査役	二瓶 郁夫	※4 (株)三越監査役 ※4,5 (株)岩田屋監査役
常勤監査役	阿部 健一	※4 (株)伊勢丹監査役 ※4 (株)札幌丸井今井監査役
※2 監査役	北山 禎介	(株)三井住友フィナンシャルグループ取締役社長 (株)三井住友銀行取締役会長 ※3 富士フィルムホールディングス(株)取締役
※2 監査役	飯島 澄雄	東京虎ノ門法律事務所 弁護士 中央大学法科大学院講師 ※4 (株)TKC監査役 ※4 北川工業(株)監査役 ※4 (株)商船三井監査役 ※4 (株)伊勢丹監査役

(注記) ※1印は社外取締役であります。

※2印は社外監査役であります。

※3印は当該株式会社における社外取締役であります。

※4印は当該株式会社における社外監査役であります。

※5(株)岩田屋は平成22年10月1日付で(株)福岡三越と合併し、(株)岩田屋三越となりました。

会社の株式に関する事項

(平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数..... 1,500,000,000株

発行済株式の総数..... 394,613,834株
(注記) うち自己株式数は、64,732株であります。

株主数..... 148,373名

(株)三越伊勢丹ホールディングスのロゴマークについて



三越伊勢丹ホールディングス

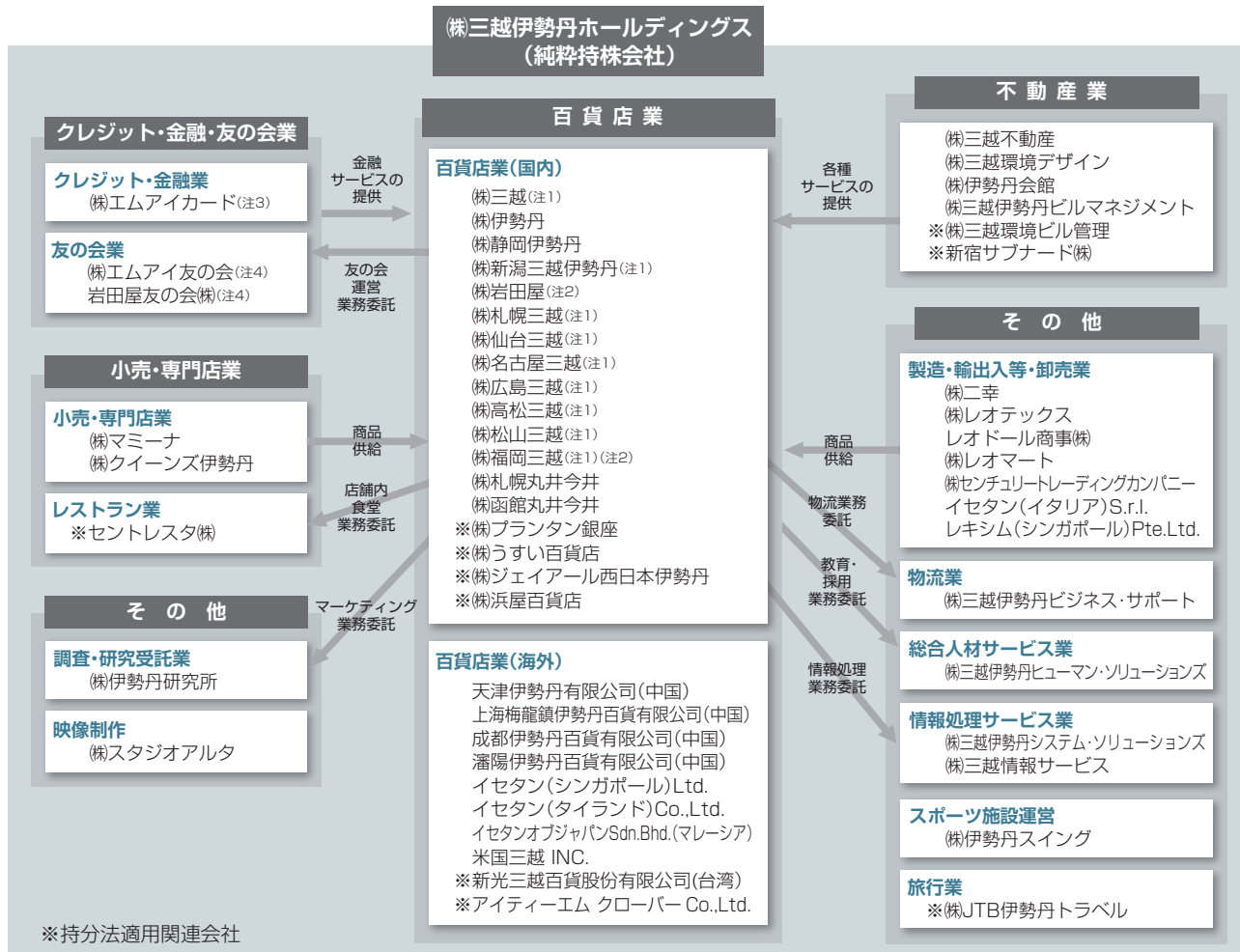
三越、伊勢丹の頭文字「M」と「I」をモチーフにしながら「向きあう」を表現した三越伊勢丹ホールディングスのシンボルマークです。3人の人が肩を組んでいるようにも見える「M」と「I」に、お客さま、仲間たち、パートナー、株主、そして社会・地域と、真摯に、しなやかに、力強く向きあう従業員の姿を託しました。

正方形と長方形を組み合わせたシンプルかつ普遍的な形によって、「向きあう」ことの意味性と同時に、これまでの小売サービス業にない上質感、独自性を表現しています。コーポレートカラーは黒と金。強い意志の表明である「黒」と、日本の伝統色である「金」を合わせることで、両社固有の伝統・文化と高い信頼性を醸しだしています。

形、色ともに、世界に、未来に羽ばたくための、私たちの原点の象徴となっています。

事業系統図

(平成22年9月30日現在)



(注1) 平成22年4月1日付で、(株)三越の札幌、仙台、名古屋、広島、高松、松山、福岡、新潟の各地域における百貨店運営事業を、(株)札幌三越、(株)仙台三越、(株)名古屋三越、(株)広島三越、(株)高松三越、(株)松山三越、(株)福岡三越、(株)新潟伊勢丹が承継しております。また、同日、(株)新潟伊勢丹は、名称を(株)新潟三越伊勢丹に変更しております。

(注2) 平成22年10月1日付で、(株)岩田屋と(株)福岡三越は合併し(株)岩田屋三越となりました。

(注3) 平成22年4月1日付で、(株)エムアイカードは、(株)三越保険サービスを吸収合併いたしました。

(注4) 平成22年10月1日付で、(株)エムアイ友の会は、岩田屋友の会(株)を吸収合併いたしました。



グループ店舗のご案内

(平成22年10月1日現在)

国内の主要店舗

(株) 三越

日本橋本店
〒103-8001
東京都中央区日本橋室町1-4-1
TEL.03-3241-3311 (代表)

銀座店
〒104-8212
東京都中央区銀座4-6-16
TEL.03-3562-1111 (代表)

千葉店
〒260-8631
千葉県千葉市中央区富士見2-6-1
TEL.043-224-3131 (代表)

新宿アルコト店
〒160-8455
東京都新宿区新宿3-29-1
TEL.03-3354-1111 (代表)

恵比寿店
〒150-6090
東京都渋谷区恵比寿4-20-7
TEL.03-5423-1111 (代表)

多摩センター店
〒206-8543
東京都多摩市落合1-46-1
TEL.042-357-7111 (代表)

ラシック店
〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄3-6-1
TEL.052-259-6666 (代表)

(株) 札幌三越

札幌三越
〒060-8666
北海道札幌市中央区南1条西3-8
TEL.011-271-3311 (代表)

(株) 仙台三越

仙台三越
〒980-8543
宮城県仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL.022-225-7111 (代表)

(株) 名古屋三越

名古屋三越栄店
〒460-8669
愛知県名古屋市中区栄3-5-1
TEL.052-252-1111 (代表)

名古屋三越星ヶ丘店
〒464-8661
愛知県名古屋市中区千種区星ヶ丘五丁目14-14
TEL.052-783-1111 (代表)

(株) 広島三越

広島三越
〒730-8645
広島県広島市中区胡町5-1
TEL.082-242-3111 (代表)

(株) 高松三越

高松三越
〒760-8639
香川県高松市内町7-1
TEL.087-851-5151 (代表)

(株) 松山三越

松山三越
〒790-8532
愛媛県松山市一番町3-1-1
TEL.089-945-3111 (代表)

(株) 伊勢丹

新宿本店
〒160-0022
東京都新宿区新宿3-14-1
TEL.03-3352-1111 (代表)

立川店
〒190-0012
東京都立川市曙町2-5-1
TEL.042-525-1111 (代表)

松戸店
〒271-0092
千葉県松戸市松戸1307-1
TEL.047-364-1111 (代表)

(株) 静岡伊勢丹

静岡伊勢丹
〒420-0031
静岡県静岡市葵区呉服町1-7
TEL.054-251-2211 (代表)

(株) 札幌丸井今井

丸井今井札幌本店
〒060-0061
北海道札幌市中央区南1条西2-11
TEL.011-205-1151 (代表)

(株) 函館丸井今井

丸井今井函館店
〒040-0011
北海道函館市本町32-15
TEL.0138-32-1151 (代表)

(株) 新潟三越伊勢丹

新潟三越
〒951-8530
新潟県新潟市中央区西堀通五番町866
TEL.025-227-1111 (代表)

新潟伊勢丹
〒950-0909
新潟県新潟市中央区八千代1-6-1
TEL.025-242-1111 (代表)

浦和店
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂1-15-1
TEL.048-834-1111 (代表)

相模原店
〒252-0303
神奈川県相模原市南区相模大野4-4-3
TEL.042-740-1111 (代表)

府中店
〒183-0023
東京都府中市宮町1-41-2
TEL.042-334-1111 (代表)

(株) 岩田屋三越

岩田屋本店
〒810-8680
福岡県福岡市中央区天神2-5-35
TEL.092-721-1111 (代表)

岩田屋久留米店
〒830-8510
福岡県久留米市天神町1-1
TEL.0942-35-7111 (代表)

福岡三越
〒810-8544
福岡県福岡市中央区天神2-1-1
TEL.092-724-3111 (代表)

(株) ジェイアール西日本伊勢丹

ジェイアール京都伊勢丹
〒600-8555
京都府京都市下京区烏丸通塩小路下路丸塩小路町
TEL.075-352-1111 (代表)

海外の主要店舗

イギリス
ロンドン三越 (ショッピング・レストラン)

イタリア
ローマ三越

アメリカ
オースランド三越 (ショッピング・レストラン)

中国
花園飯店 (上海) 三越

台湾
新光三越
台北信義新天地A8
台北信義新天地A11
台北信義新天地A9
台北信義新天地A4

台北南西店一号館
台北南西店二号館
台北南西店三号館
台北駅前店
台北天母店
桃園大有店
桃園駅前店
新竹中華店
台中中港店
嘉義垂楊店
台南中山店
台南西門店
高雄三多店
高雄左營店一号館
高雄左營店二号館

シンガポール
シンガポール伊勢丹・スコッツ店
シンガポール伊勢丹・オーチャード店
シンガポール伊勢丹・カトン店
シンガポール伊勢丹・タンピナス店
マレーシア
クアラルンプール伊勢丹・LOT 10店
クアラルンプール伊勢丹・KLCC店
クアラルンプール伊勢丹・THE GARDENS店

タイ
バンコク伊勢丹
中国
上海梅龍鎮伊勢丹
天津伊勢丹
成都伊勢丹
瀋陽伊勢丹

1 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

当社の単元株式数は100株となっております。1株から99株の単元未満株式につきましては、株式市場で売買できない、株主総会で議決権を行使できないなどの制約があります。

当社ではそのようなご不便を解消するため、単元未満株式を当社が買取する制度および株主様が当社に対して買増しを請求できる制度を実施しております。

■単元未満株式の買取・買増制度の概要

買取請求制度

ご所有の100株未満の株式を当社に買取よう請求できる制度です。

[例] 株主様がご所有の40株を市場価格で当社に売却し、代金を受領する。

買増請求制度

ご所有の単元未満株式を100株(単元株)にするために必要な数の株式を買増すことを当社に請求できる制度です。

[例] 株主様が60株を市場価格で当社から購入し、100株にする。

ご所有の株式が
40株の場合

買取請求で当社に売却
40株売却

売却代金を受領
40株×市場価格

買増請求で当社から購入
60株購入

単元株式として所有
100株(40株+60株)

(ご注意)

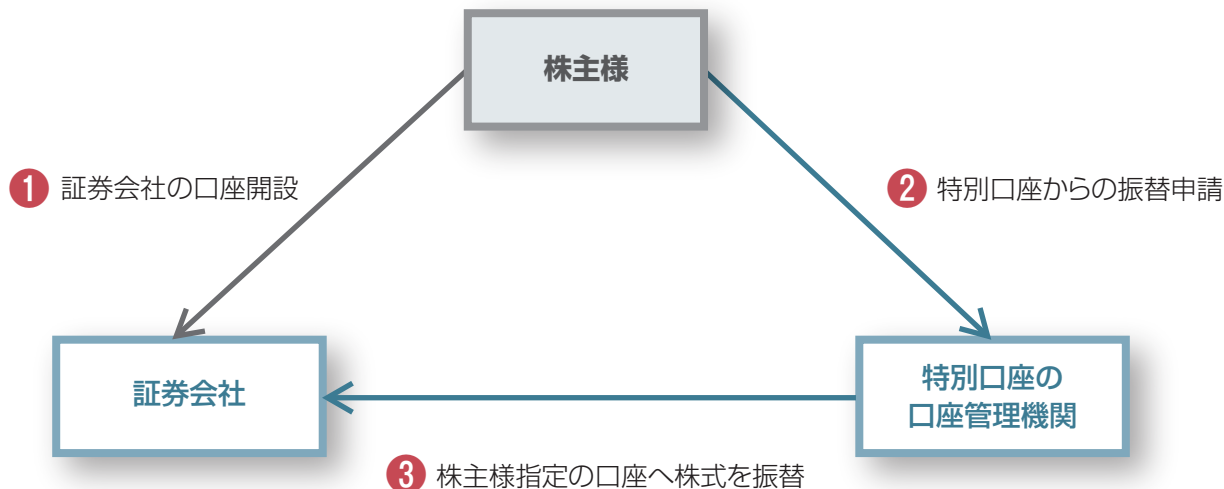
- 1.単元未満株式の買取・買増請求のお手続きにつきましては、単元未満株式が証券会社等の口座に記録されている場合はお取引口座のある証券会社等に、特別口座に記録されている場合は特別口座管理機関にお問合せください。
- 2.当社では、単元未満株式の買取・買増に係る手数料は無料とさせていただきます。(ただし、証券会社等によっては、取次手数料が発生する場合がございます)

2 特別口座をご利用の株主様へのご案内

特別口座とは、株券電子化移行時に株券をほふり(証券保管振替機構)に預託しなかった株主様のために、当社が信託銀行に開設した口座です。

特別口座に記録されている株式は、そのままでは売却ができません。
株式に係るお手続きを容易にするためにも、証券会社に口座を開設し、特別口座からの振替を行ってください。

■特別口座から証券会社の口座への振替のお手続き(①②③がお手続きの順番となります)



(ご注意)

- ②のお手続きにつきましては、25ページ記載の特別口座の口座管理機関にお問合せください。(旧)岩田屋の株主様については、みずほ信託銀行、それ以外の株主様については、三菱UFJ信託銀行が特別口座の口座管理機関となっています。
- すでに証券会社等に口座をお持ちの場合、①のお手続きは必要ございません。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所、福岡証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.imhds.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、下記特別口座の口座管理機関にお問合せください。なお、特別口座の口座管理機関の全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 当社と株式会社岩田屋の株式交換の効力発生日の前日である平成21年10月14日において、株式会社岩田屋の株式を特別口座でご所有の株主様につきましては、みずほ信託銀行株式会社が特別口座の口座管理機関となっておりますので、(旧)株式会社岩田屋株式にかかる特別口座の口座管理機関（みずほ信託銀行）にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
(旧)株式会社岩田屋株式にかかる特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL.0120-288-324 (通話料無料)

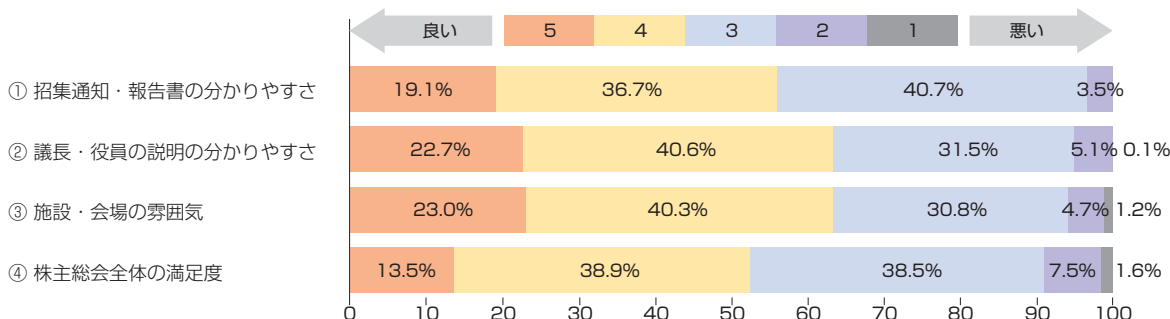
〈当社 第2回定時株主総会（平成22年6月28日開催）におけるアンケート結果のご報告〉

平成22年6月28日開催の当社第2回定時株主総会にご出席された株主様を対象に、アンケートを実施し、802名の株主様からご回答を頂戴いたしました。ご協力いただきました株主様には、誠にありがたく、お礼申しあげます。

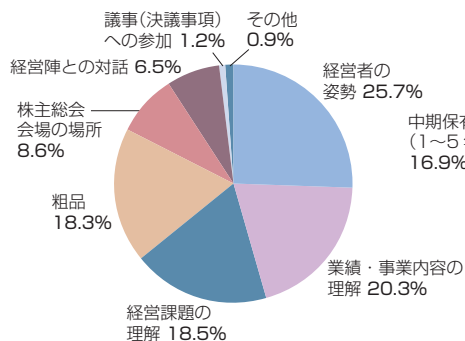
なお、頂戴いたしました株主様の貴重なご意見は、今後の株主総会運営等に活かしてまいりたいと存じます。

以下に集計結果を掲載させていただきます。

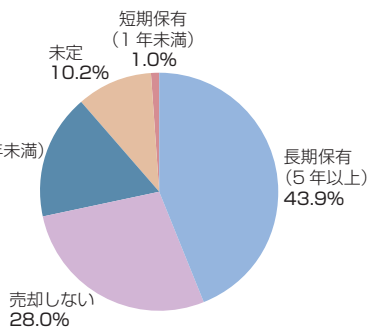
Q1 今回の株主総会に関する評価について



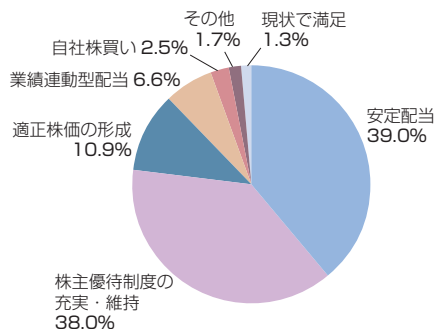
Q2 株主総会において重視する事項について



Q3 今後の保有方針について



Q4 株主還元策に もっとも期待することは何ですか



株式会社三越伊勢丹ホールディングスは、平成22年度の中間配当を行わず、期末に一括して配当を実施する予定でございます。



三越伊勢丹ホールディングス

本社 ● 〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目6番16号

事務所所在地 ● 〒160-0022 東京都新宿区新宿五丁目16番10号

ホームページアドレス ● <http://www.imhds.co.jp>

証券コード ● 3099

桜鼠 *sakuranezumi*

淡い紅色が灰色をおび、わずかにくすんだ薄い桜色をいう。
江戸中期頃の「吉井藤吉染見本帳」や
後期の色見本帳に「桜鼠」の色名がたびたび見られる。